

後藤新平が創案した満州医科大学に学んだ親	し、大量の死者を出す病いを撲滅した方で、	于先生は、満州の風土病「克山病」を究明	す。	の名誉校長、于維漢先生の同伴を得たからで	シネマ人間紀行「に感動した哈爾濱医科大学	この旅が実現したのは、高野さんの著書「	さんに黒龍江への旅を決意させたのです。	く、親孝行もしないでしまった悔いが、悦子	は父の葬儀の日でした。父の仕事に関心が無	と、いう父の思いを高野さんが初めて知ったの	る黒龍江の辺りに鉄道線路が達した時だった	生涯で一番嬉しかったのは、旧満州を流れ	る、満州鉄道六千キロの旅のエッセイです。	の遺灰をソ連との国境を流れる黒龍江に納め	旧満鉄の鉄道技師であった父、高野與作さん	高野悦子さんの著書「黒龍江への旅」は、						「黒龍江省への旅」を読んで
----------------------	----------------------	---------------------	----	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	--	--	--	--	--	---------------

賭	を	業	に	る		を	そ	な	に	り		月	が		仕	で		で	日
け	受	し	育	く	立	頼	れ	か	多	し	こ	間	る	于	事	を	高	す	家
事	け	、	ち	奔	山	り	が	っ	く	日	の	の	地	先	に	大	野	°	で
も	た	満	、	放	に	に	高	た	の	の	本	旅	を	生	つ	連	さ		し
一	教	鉄	苦	で	生	、	野	自	方	母	を	が	訪	の	い	、	ん		た
切	師	の	学	ス	ま	一	さ	分	に	を	手	一	れ	案	て	瀋	は		°
や	柳	技	し	ポ	れ	緒	ん	を	聞	私	に	九	、	内	移	陽	満		多
め	子	師	東	ー	た	に	の	悔	く	は	し	八	黒	で	り	、	州		く
る	さ	に	京	ツ	お	旅	思	い	母	探	た	五	龍	、	住	撫	大		の
と	ん	な	帝	万	父	す	い	、	の	し	時	年	江	懐	み	順	石		医
約	に	り	大	能	さ	る	に	落	遺	て	、	七	へ	か	ま	、	橋		師
束	一	ま	の	、	ん	思	重	ち	徳	い	私	月	父	し	し	吉	に		仲
し	目	した	工	賭	は	い	なり	込	に	ま	の	始	の	い	た	林	生		間
て	惚	°	学	け	、	で	、	ん	驚	した	知	ま	鉄	少	°	、	ま		を
結	れ	学	部	事	不	読	満	で	き	°	ら	っ	路	女		哈	れ		日
婚	、	資	土	好	遇	ん	州	い	、	葬	な	た	を	の		爾	、		本
し	禁	の	木	き	中	だ	の	た	何	儀	か	の	進	日		浜	十		に
渡	酒	援	科	な	、	の	地	の	も	の	っ	で	む	に		に	五		持
満	禁	助	を	少	明	で	凶	で	知	た	た	す	一	つ		父	才		っ
°	煙		卒	年		す		す	ら	在	在	°	ヶ	な	の	の	ま		方

、

°

°

も	中	の	り	十	更	命	や		人	頼	揚	輩		安	に	道		の	し
迎	学	哈	、	度	に	の	馬	盧	も	篤	で	に		を	あ	技		夫	か
え	か	爾	一	の	、	危	賊	溝	の	く	度	親	関	率	あ	師		を	し
て	ら	浜	生	寒	度	険	、	橋	社	、	胸	切	東	先	る	と		柳	約
、	の	で	の	さ	重	に	パ	事	員	一	が	で	軍	し	と	、	子	束	
永	親	は	病	が	な	晒	ル	件	が	親	良	、	も	、	、	夫	は	反	
久	友	レ	気	肝	る	さ	チ	か	集	分	く	、	上	一	の	人	は	故	
凍	中	ー	も	臓	水	、	ザ	ら	ま	一	、	頭	司	鉄	仕	は	生	、	
土	谷	ル	背	ジ	害	工	ン	日	り	と	頭	に	も	道	事	涯	涯	狩	
層	宇	を	負	ス	や	事	、	中	、	慕	は	も	お	の	で	支	支	の	
の	吉	壊	う	ト	洪	は	更	戦	い	わ	科	お	も	父	した	え	続	趣	
研	郎	す	過	マ	水	熾	に	争	つ	れ	学	も	と	一	。一	力	け	味	
究	博	凍	酷	や	、	烈	関	が	も	、	的	ね	呼	万	運	を	ま	も	
に	士	上	さ	凍	北	を	東	勃	賑	高	な	ず	ば	キ	輸	入	し	加	
没	を	に	で	傷	部	極	軍	発	や	野	與	、	れ	ロ	力	れ	た	わ	
頭	満	悩	した	の	で	め	に	し	か	家	作	同	ま	の	は	の	。一	り	
し	州	ま	。北	病	は	ま	ま	、	で	に	さ	僚	す	敷	線	は		、	
ま	に	さ	部	に	零	す	で	八	した	は	ん	や	。一	設	、				
し	何	れ		繋	下	す	常	櫨	た	何	は	後		、	保				
た	度	、		が	三	。一	に	軍	。一	十	信								そ

そ	與	満	記	ん	施	来	銃	連	百	人	後	家	を	百	は	線	の	隠	與
の	作	州	や	の	設	た	殺	の	五	達	処	族	完	人	作	路	中	滅	作
與	さ	を	記	思	会	の	刑	指	十	が	理	を	成	の	の	に	に	全	作
作	ん	選	録	い	の	は	を	示	万	飢	に	日	さ	局	が	破	飛	書	さ
さ	の	び	が	出	方	、	免	下	人	え	没	本	せ	員	仕	を	び	類	ん
ん	姿	、	証	一	々	高	れ	で	の	や	頭	に	、	を	事	食	込	を	の
の	が	愛	言	三	百	野	、	鉄	開	危	、	送	中	動	で	い	み	焼	凄
生	浮	し	し	六	二	さ	戦	路	拓	険	か	り	国	員	、	止	、	却	さ
き	か	、	て	三	十	ん	犯	の	民	か	つ	届	に	し	壊	め	鉄	す	は
方	び	鉄	い	頁	人	の	に	修	の	ら	て	け	引	、	す	た	道	る	敗
は	、	道	ま	や	が	お	な	復	引	守	與	、	継	満	事	こ	線	司	戦
、	心	を	す	友	編	陰	ら	を	き	つ	作	與	ぎ	鉄	で	と	路	令	の
生	が	作	。	人	ん	だ	ず	終	揚	て	さ	作	ま	一	は	で	図	官	八
涯	震	り		た	だ	つ	に	え	げ	二	ん	さ	。	万	な	す	の	に	月
に	え	守		ち	一	た	全	て	を	年	と	ん	終	キ	い	。	書	逆	十
渡	ま	り		の	高	と	員	二	助	働	働	は	戦	ロ	一	。	類	ら	五
っ	し	続		膨	野	、	が	後	け	いた	中	満	直	の	と	技	守	い	日
て	た	け		大	與	元	帰	帰	、	た	国	鉄	前	路	、	術	り	、	証
夫	。	た		な	作	満	国	出	ソ	。	国	の	に	線	三	者	、	火	拠

映	を	れ		て	星		ル	の	に	区	民		中		與	未	て	の	を
画	読	、	一	泣	を	満	の	思	、	日	の	戦	国	于	作	踏	高	姿	支
が	ん	五	黒	く	仰	州	仕	い	一	本	白	争	の	先	さ	の	と	え	
岩	だ	百	竜	高	ぎ	鉄	事	が	二	人	骨	の	人	生	ん	偉	度	重	続
波	中	冊	江	野	、	道	の	重	度	公	を	々	々	と	は	業	文	な	け
ホ	国	が	へ	さ	父	の	大	な	と	墓	一	と	交	の	悔	に	化	っ	て
ー	の	中	の	ん	の	到	き	り	戦	一	戦	流	流	旅	い	受	を	て	ぶ
ル	高	国	旅	に	遺	達	な	、	争	を	争	し	し	は	の	け	発	、	れ
に	官	の	一	、	灰	点	柱	改	は	作	の	、	、	、	無	継	信	上	る
届	に	大	は	涙	を	、	の	め	だ	り	同	行	友	く	い	が	し	質	こ
き	よ	学	そ	が	大	黒	一	て	め	弔	じ	先	好	先	日	れ	続	の	と
上	り	に	の	止	河	龍	つ	一	だ	つ	犠	々	の	々	々	た	け	映	の
映	、	寄	後	ま	に	江	に	非	一	た	牲	で	輪	大	を	で	た	画	な
さ	文	贈	、	り	納	に	なり	戦	と	周	者	を	を	歓	発	す	高	を	か
れ	革	さ	中	ま	め	立	り	一	言	恩	一	し	広	迎	掘	野	発	っ	た
た	後	れ	国	せ	て	ち	ま	は	い	来	と	ま	げ	を	、	悦	掘	お	お
の	の	て	語	ん	声	、	し	岩	続	首	一	す	ま	受	上	子	、	映	母
を	最	、	に	で	を	満	た	波	け	相	方	。開	す	け	映	後	上	映	さ
、	高	そ	訳	し	上	天	。	ホ	た	の	正	拓	。	。	も	の	し	ん	ん
五	の	れ	さ	た	げ	の		ー	父	心	地								

